

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
63	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Varenicline attenuates cue-induced relapse to alcohol, but not nicotine seeking, while reducing inhibitory response control. バレニクリンは阻害反応コントロールを低下して、アルコールに対する合図誘導性の再発を軽減するが、ニコチン探索は低下しない	
<b>執筆者</b>	
Wouda JA, Riga D, De Vries W, Stegeman M, van Mourik Y, Schetters D, Schoffelmeer AN, Pattij T, De Vries TJ.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Psychopharmacology (Berl). 216(2):267-277 (2011)	
<b>キーワード</b>	
バレニクリン、アルコール、ニコチン、自発投与、アルコール依存症	
<b>要旨</b>	
<b>背景：</b> 最も広く使用されている乱用薬物であるニコチン（タバコ）とアルコールに対する治療は、高い率で生じるその再発が障害となっている。□4□2ニコチン受容体の部分刺激薬であるバレニクリンは禁煙補助剤として使用されている。一方、ラットを用いた研究で、バレニクリンはアルコール探索行動や認知機能を制御していることが示されている。	
<b>目的：</b> ラットを使用して、アルコール（12%、v/v）、ニコチン（40 mg/kg）、ショ糖（10%、w/v）に対する自発投与-再発モデルでの行動薬理的变化に対するバレニクリンの効果を検討した。また、アルコールとニコチンに対する合図誘発性探索行動に対するバレニクリンの効果を検討した。認知機能に関しては、5-選択反応時間課題を利用して、依存行動に関係のあることが示されている正反応（注意機能の指標）と尚早反応（衝動性の指標）に焦点を当ててバレニクリンの効果を検討した。	
<b>結果：</b> バレニクリン（1.5、2.5 mg/kg、腹腔内投与）はモデルラットで、アルコールとニコチンの自発投与を低下させた。バレニクリンはアルコールに対する合図誘導性の再発を軽減した。一方、バレニクリンはニコチンに対する探索行動には影響せず、合図誘導性のニコチン探索行動を亢進した。また、バレニクリンは5-選択反応時間課題での阻害反応コントロールを低下（尚早反応の上昇）させたが、他の行動的指標に関しては影響しなかった。	
<b>結論：</b> バレニクリンはニコチンとアルコールに対する応答（自発投与）を低下させた。バレニクリンは、アルコールに対する合図誘導性（嗜癖性）再発を効果的に低下したが、ニコチンに対する合図誘導性再発には効果なかった。このことから、バレニクリンはアルコール依存症の治療薬として有効であると考えられる。	